

令和3年度 第1回 北杜市総合計画審議会  
《会議録》

- 1 日 時 令和3年7月19日（月）13:00～16:40
- 2 場 所 北杜市役所 北館3階 大会議室
- 3 出席者 【会長】藤原真史  
【副会長】矢野 望 北原正倫  
【委員】小川昭二 村田 茂 小池雅美 内藤和心 日野水丈士 堀内敏光  
小林喜文 安達義通 小池啓一 井上能孝 浅川英三 功刀孝次郎  
佐野 極 矢崎憲恒 渡邊雅人 飯田直也 下田実奈 中澤尚志  
飛矢崎雅也（敬称略）  
【市役所】市長 上村英司  
副市長 小林 明  
教育長 輿水清司  
政策秘書部長 宮川勇人 企画部長 中田治仁  
総務部長 中山晃彦 健幸市民部長 八巻弥生  
福祉部長 伴野法子 森林環境部長 大芝 一  
産業観光部長 輿水伸二 建設部長 大輪 弘  
上下水道局長 浅川和也 外  
【事務局】政策推進課長 浅川 豪  
政策推進課 計画推進担当 向井幹裕 篠原 亮 有賀 翼  
【委託業者】特定非営利活動法人SCOP 鷲見真一 木亦千尋
- 4 会議録署名 浅川委員 安達委員
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍 聴 1名
- 7 会議内容 【委嘱状交付式】 1) 開会  
2) 市長挨拶  
3) 委嘱状交付及び委員紹介  
4) 閉会  
  
【第1回審議会】 1) 開会  
2) 北杜市総合計画審議会の概要について  
3) 会長・副会長選任  
4) 審議  
議題①第3次北杜市総合計画の策定方針について  
議題②第3次北杜市総合計画基本構想骨子案について  
議題③その他  
5) その他  
6) 閉会

## 8 会議経過

### 【委嘱状交付式】

#### 1) 開会

#### 2) 市長挨拶

市長挨拶の内容は、次のとおり。

- 市長就任以来、「人と自然と文化が躍動する環境創造都市」の実現を目指し、「北杜新時代・幸せ実感・チャレンジ北杜」を市政運営のスローガンに掲げ、誰もが幸せを実感できるまちづくりに取り組んでいる。
- 市民の皆さんに実感していただきたい「幸せ」とは、消費に重点を置いた従来の価値観ではなく、「健康」「つながり」「家族との時間」「生きがい」といった性別や家庭の事情等に関わりなく、子どもから高齢者までが、分かち合い、共感し合える心の豊かさ。
- そうした幸せを実感できる市民を10年後の北杜市において最大にしたい。
- コロナ禍を契機に、人々の価値観や生き方が変わり、これまで当たり前とされていたことが、改めて問い直されつつある。中でも、デジタル化の進展と相まって、都市部での働き方が地方においても可能となる中で、東京一極集中から地方回帰、田園回帰の流れが加速し、全国的にも地方創生の新たな展開が見られている。
- 本市に目を向けると、優れた自然景観や日本一の日照時間、東京に隣接した立地条件にある中で、今後、中部横断自動車道の開通等による都市圏とのアクセスが飛躍的に向上することで、人の流れが大きく変わり、本市において人間性豊かな暮らしをしたいと願う人が増え、関係人口や移住希望者の増加につながることを期待される。
- 近年、気候変動等に伴う大規模な自然災害が頻発し、都市部での生活リスクがクローズアップされているが、再生可能エネルギーの活用などによる持続可能な地域づくりを進めてきた本市は、安全・安心な暮らしや企業活動が可能な場所としても注目されている。
- コロナ禍などをきっかけとした社会の変化は、本市の価値や優位性をさらに高めていく、これまでにない大きなチャンスである。
- 一方、今後の10年間を見通した場合、以前にも増して社会の様々な面で変化のスピードが加速する10年になるものと考えている。
- このため、特に少子高齢化が進む本市においては、これまでの施策の成果を生かしながらも、時代に対応した新たな視点から、市政を推進していくことが大変重要となる。
- こうした背景を踏まえ、コロナ禍で生じたチャンスを生かし、社会の変化に柔軟に対応したまちづくりを進めるための指針として、第3次総合計画を策定することとした。
- この第3次総合計画を本市の成長戦略として、10年後に誰もが幸せを実感できる北杜市の実現に向けて、積極果敢にチャレンジしてまいりたい。
- 本審議会の委員をお願いする皆さんには、ぜひとも、こうした趣旨をご理解いただき、様々な視点から忌憚のないご提言をいただくことを期待する。

#### 3) 委嘱状交付及び委員紹介

#### 4) 閉会

## 【第1回審議会】

### 1) 開会

### 2) 北杜市総合計画審議会の概要について

資料1に基づき事務局から説明

### 3) 会長・副会長選任

会長については、2名の立候補があり、藤原真史委員が挙手多数により、決定した。また、副会長については、3名の立候補があり、矢野望委員と北原正倫委員が挙手多数により、決定した。

会長、副会長の決定に至る経緯は、次のとおり。

(発言者)	(発言内容)
事務局	北杜市審議会条例第6条に、審議会に会長、副会長を置き、委員の互選によってこれを決めると定められており、その方法について伺う。
委員	事務局一任でお願いしたい。
委員	先日の「ほくと子ども育成戦略会議」で、当日、事務局一任という話となり、混乱したという話を聞いた。新しい市長の下での重要な審議会なので、第6条に則り、立候補の意志がある者がいるかをまず確認して進めるのが良いのではないかと。
事務局	今、「事務局一任」という声と「立候補」という意見があった。 まず、今回、新たに総合計画を策定するにあたり、総合計画審議会ではじめて一般公募枠を設定したが、会長・副会長、特に会長については総合計画が幅広い分野を検討し、取りまとめるものであること、運営は公平・公正に行われ、円滑に進めていただく役割があるため、審議会の運営の観点から一般公募委員ではなく、職域の枠の委員にお願いしたいと考えている。 そのような審議会の運営方針を踏まえて、立候補いただきたい。
委員	立候補は非常に良いが、会則では委員の互選によって決めると記載があるので推薦者がいれば、それも諮っていただきたい。
事務局	「自薦」「他薦」含めて、それぞれ諮ることとする。まず、立候補をお考えの委員は挙手をお願いしたい。  (A委員が挙手)
事務局	先ほど説明したとおり、審議会の運営方針から、一般公募委員以外で考えている。

- A委員 市民が注目している審議会であり、その審議会が出された方針に正当性を担保することが非常に重要ではないか。立候補に一般公募委員を外してそれ以外の委員から選ぶというのは、公募に記載がある市民が主役のまちづくりを目指すという趣旨を踏まえると、市民から疑問符がつき、市民の期待から外れてしまうのではないか。公平にやっていただきたい。それが、新市政のためになると確信している。
- 事務局 事務局としては、当審議会の重要性を認識しており、スケジュールどおりに円滑に進めたいと考えている。推薦があれば、ぜひ発言をお願いしたい。
- 委員 今回の会長・副会長は互選とあり、互選の方法は色々なやり方がある。事務局の意向はあると思うが、基本的に委員の互選とあるので、まずは委員の皆さんの意見を聞いた方がよいのではないか。  
また、一般公募委員は除外というのは公平性にかけるのではないか。
- 事務局 制度上は自薦・他薦がある。事務局からの推薦としては、会長に山梨大学の藤原真史准教授を考えており、この推薦者について、委員の皆さんからお声をいただきたい。  
今回、広く市民の皆さんからご意見を聞いて、それらを市政に反映させていくという趣旨で一般公募を設けたものであり、幅広い意見ということが、今回の一般公募委員の大きな役割と考えている。  
一般公募委員に関しては、議事運営に関することについては、今回は見送り、皆さんの多様な意見をいただきたいと考えている。  
以上が事務局の考え方になるが、その他「推薦」「立候補」があれば発言をお願いしたい。
- 委員 そのような話であれば、まずは委員の皆さんの意見を聞いた方が良いのではないか。私自身、立候補しないし、個別の推薦者はいない。しかしながら、事務局一任ではなく、意見を聞いた方が良いのではないか。
- 委員 委員の互選ということで、提案したい。  
北杜市の最上位の総合計画をつくる審議会なので、特定の職域や企業に属さない、全県的な広い視野から北杜市を見ていただけるような方に会長を引き受けていただきたい。  
そういう意味で、事務局からの推薦というわけではなく、私がこの名簿を見る中で山梨大学大学院准教授の藤原委員を推薦したい。
- A委員 先ほど手を挙げた理由をお話したい。  
私は、市長公約である「市民主役のまちづくり」を目指して、市民と行政が未来を共有できる計画を市民と一緒に作り上げるため計画原案を審議する委員を

募集するという趣旨に賛同して応募した。

一般公募の私が会長に選ばれるということは、市民主役のまちづくりを目指す上で象徴的な意味合いを持ち、今回の策定に対する北杜市の意欲を示し、市民に向けたメッセージになるという点で意味があると考えている。

また、市長の最大の公約は「10年間で子どもの数を2倍にする」というもので、子育てに重きをおかれている。私も子育て真っ最中であり、小学校1年生、3年生と、高校を卒業した子どもやその上の子どももいる。その経験を活かせると考えている。

私が会長になることは、市民の役割モデルを提供することになる。私自身は、専任ではないが、大学で教えており有識者でもある。公平で分け隔てがない、偏らない運営をおこなえる。市民と行政で未来を共有できる計画をまとめることができるよう、全力を尽くしたいと考えている。

藤原委員

事務局から推薦されたので、私も発言をしたい。

事前に事務局から審議会で同意が得られたらという形で、話をいただいた。これまで北杜市の地方創生の「総合戦略」の策定に携わってきた。また、今回は行政改革の取り組みを総合計画に取り込んでいくという野心的な試みがあり、「行財政改革大綱」の策定にも携わっていることから、計画間の整合を取りながら、一つの良い計画を作ることに貢献できたらと前向きに協力したいと考えている。

立候補と事務局案とバランスが悪いということなら、申し上げたような思いで携わりたいと考えているので、立候補という形にしていただいても構わない。

委員

2人が名乗りをあげてくれた。それぞれ主張も経験もあり、投票か挙手で決めてはどうか。他に立候補者がいなければ2人から決めるのが良いのではないか。

事務局

委員から、投票か挙手での決定の提案があった。藤原委員からも立候補の声があった。他に立候補される方は挙手をお願いしたい。

(特になし)

それでは、立候補のあった2人から挙手で会長を決めたい。

A委員が良いと思う委員の方は、挙手をお願いしたい。

(A委員への挙手：少数)

藤原委員が良いと思う委員の方は、挙手をお願いしたい。

(藤原委員への挙手：多数)

事務局

投票の結果、会長は山梨大学の藤原真史准教授が選出された。

次いで、副会長の2名を決めたい。事務局からは、男女共同参画推進委員会の矢野委員と県中小企業同友会の北原委員を推薦する。

委員	副会長も同様に互選という形で、挙手による決定をお願いしたい。
事務局	副会長についても、会長の選定と同様に立候補あるいは推薦者があれば挙手をお願いしたい。
A委員	新しい試みである一般公募枠の委員が、やはり会長ないし、副会長になることに意味があるメッセージだと思うので、立候補させていただく。
事務局	他に立候補される方、推薦される方はいるか。
委員	先ほど事務局から名前が挙がったところで、藤原会長が立候補された。事務局から名前があがった2人に立候補の意思を確認してはいかがか。 私としては立候補を期待するが、ぜひ当人たちに確認していただき、期待に応えてください。
北原委員	山梨県中小企業団体の代表をしている。北杜市、韮崎市の地域に支部を立ち上げた時の支部長でもあった。 この地域、北杜市の経済的な発展、全体的な行政に関わる手伝いがしたいと考えている。推薦をいただいたが、立候補という形にさせていただきたい。
矢野委員	男女共同参画推進委員会に所属している。事務局から推薦いただいたが、立候補に変えさせていただきたい。 第2次総合計画の策定でも委員として関わった。そのとき、審議内容が多岐にわたり、市の課題やポテンシャルを知ることができた。今回も策定に携われることを光栄に思っている。
事務局	他に立候補される方はいるか。  (特になし)  それでは、3人の候補者の中から投票としたい。
委員	皆さんの話を聞いて熱意を感じた。3人から立候補があつたが、副会長は2人でなく3人ではいけないのか。
事務局	副会長の人数については、条例で2名と規定されており、ここで変更することはできない、ご理解をお願いしたい。 それでは副会長の投票を行う。3人の立候補のうち、良いと思う委員に一人2回、挙手をされたい。

(北原委員、矢野委員への挙手：多数)

(A委員への挙手：少数)

事務局

副会長には、「北原委員」と「矢野委員」が選出された。  
それでは、会長、副会長の3名の方については、席の移動とご挨拶をお願いしたい。

#### (会長・副会長挨拶)

(発言者)

(発言内容)

藤原会長

立候補で選ばれるのは、はじめて。責任重大だと覚悟を決めて務める。地方創生の総合戦略と、行政改革の取り組みにも携わっている経験と、大学で政治行政について研究・教育していることから、学問的、専門的な見地にわたって議論をサポートしていきたい。

議論の交通整理をしつつ、皆さんの議論を増やしていきたい。市の最上位計画であり、10年後この計画が新たな北杜市の出発点だったと振り返ることができるような、弱みを克服して強みを伸ばす計画づくりをしたいと考えている。ワンチームとして取り組んでいきたい。

矢野副会長

会長をサポートし、円滑な進行等に努める。

北原副会長

会長をサポートしながら、特に経済面の話しが出来ればと考えている。

#### 4) 審議

##### 議題① 第3次北杜市総合計画の策定方針について

##### 議題② 第3次北杜市総合計画基本構想骨子案について

議題①について、事務局から資料3、資料4、資料7により説明し、議題②について、事務局(委託業者：SCOP)から、資料5、資料6、資料7により説明。委員からの質疑や意見については、次のとおり。

(発言者)

(発言内容)

議長

大きく2つの内容があった。一つは、資料5を中心とした「現状分析・課題」。もう一つはそれ以外の資料で示している基本構想、基本計画の2本立てにするなど総合計画のつくりや方向性、ありたい姿について。

資料6の半ばから示されている「ありたい姿」への意見、また委員の皆さんが考える10年後の北杜市の姿については、委員一人ずつ時間を設け、ご意見をいただきたい。

まずは、「現状・分析」に関わる部分とありたい姿を除いた基本構想について、

ご質問、ご意見をお願いしたい。

委員 資料2の日程について、第3回目の会議日程が9月28日（木）となっている。日と曜日がずれているがどちらが正しいか。

事務局 日が正しい。第3回会議は、9月28日の火曜日に修正をお願いする。

委員 人口に関して、総務省の国勢調査の人口速報によれば、日本の総人口は1億2,600万人で2015年の前回調査に比べて86万人、率にして0.7%の減少となっている。

同期間における北杜市の減少は、資料5の1ページ目の【図表1-2】の数字を率にすると2.3%で日本の人口減少の約3倍の減少率となっている。

また、地方自治体レベルでみると、日本にある1,719市町村のうち、人口が増加したのはこの5年間で302市町村だけで、全体の8割強にあたる1,416市町村で人口が減少している。

さらにそのうちの6割が5%以上の人口減少となっている。北杜市は2.3%の減少だが楽観視できないと感じている。

一方、人口が増えている302市町村では、どんな施策を行って増えているのか、成功例を調べて良い点を真似ることも有効ではないかと考えている。人口が増えた302市町村の良し悪しを把握して真似できることは、これから人口を増やそうと考えている市町村のメリットである。成功例を調べることを事務局にお願いできれば、有効な手立てになるのではないか。

東京は4.1%増加しているが、便利で物にあふれて職も多い東京を真似していきたいとは思わない。北杜市ならではの自然の豊かさなどの良さに魅力を感じる人に来て欲しい。

事務局 先日、設置した「ほくと子ども育成戦略会議」では、「10年で子どもの数を倍にする」という高い目標を掲げて意見等を求めている。先行事例については市と条件が同じ所、異なる所があるが、参考にしていきたい。

資料5の8ページについて、【自然減・社会増減率】や【転出理由の散布図】で北杜市は社会増が県内市町中3番目に高いが、自然増減で見ると減少になっていて、トータルでは人口減少している。人口増がみられる市は、北杜市とは人口ピラミッドが異なり、社会増も多いので人口が増えていると考えられる。

県内の市町村で人口が増えているところがあることが分かる。

委員 人口が増えているのは甲府周辺のベットタウン。また、忍野村など企業城下町で人口が増えている。北杜市と同じ条件の所を探すのは難しい。

基本構想に関して、SDGsを活用した基本構想となっており、ものすごく、きれいにできている。しかし、基本構想が基本計画へどのようにつながるのか、わからない。

構想は立派だが、基本計画に入ると消えてしまえば構想が生きない。基本構想と基本計画がどのようにつながっているのか、基本構想が基本計画にどう影響するのかを教えていただきたい。

事務局

基本構想と基本計画の位置付けについて、基本構想は、10年後を展望して目標とすべき未来のありたい姿を描いた上で、基本計画ではそれを実現するための方向性を示すものと考えている。また、計画的な市政運営を行う上での指針となるものと考えており、基本計画に基づいて、施策を総合的かつ体系的に推進したいと考えている。

資料7は、総合計画の全体イメージ。道筋、課題、目標を検討しながら、基本構想と基本計画と結び付けていきたいと考えている。

委員

SDGsを使うのは挑戦的で、先取りの取り組みと思う。基本計画は、産業・経済・観光という区分の枠組みになっている。【ありたい姿】は、SDGsを使いながら、5つに分けるよりも、産業は産業、子育ては子育てに分けた方が後々つながると思う。あえてこう分けたメリットを教えていただきたい。

事務局

基本計画の分野は、一般的な政策カテゴリをつかい、分かりやすく区分したものの。ありたい姿と基本計画との連動については、現在の段階では関連付けしたものではない。基本構想、基本計画を分かりやすくすることも今回の策定テーマと考えているので、ご指摘の点等を踏まえ、今後の策定の中で検討していきたい。

議長

上位部分と下位部分で目的と手段の関係が繋がることは政策を考える上で基本なので、目的と手段の関係が上手くつながらなければSDGsを持つてくるのは逆効果になる。

ご指摘を含めて体系的な流れになっているか確認をお願いしたい。

委員

総合計画は最上位の計画になる。総合計画があっても、国から計画をつくれと言われてつくと、どこに位置付けるかわかりづらい点が多少あった。

今回はすべて総合計画の中に含めて、全体を統一して進めていくという、わかりやすい、良い構成になっている。

各自治体に策定が義務付けられている「まち・ひと・しごと創生総合戦略」も総合計画の中に含めていくという説明であったが、どのように総合戦略を今回の総合計画の中に整合性を持って位置付けるのか、消化していくのか、うまく溶け込めるのか教えていただきたい。

資料3の4ページ目にあるように、従前の第2次総合計画が3層構造であったのに対し、今回が基本構想、基本計画の2層構造になっているのは、明快性の向上という点で賛同する。

その上で、北杜市の10年後の姿を掲げるわけだが、10年間のスパンがあり、1年1年着実に階段をのぼっていくことが求められる。5年経ったら5階まで登

りました、10年経ったら頂上まで登りましたとなって欲しい。

基本計画は、5年計画だが、行政は予算も含めて1年毎のサイクル。1年毎の成果をどのように検証していくのかお尋ねする。

事務局

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の溶け込ましについて、現行の総合戦略は700～800の事業が網羅的に位置付けられており、どこが重点なのかわかりにくいなど課題があった。総合戦略に位置付けた施策は、総合計画の策定にあたって重要な点も踏まえ、基本計画のリーディングプロジェクトを総合戦略として位置付け、それに関連する主要事業を紐付けていくことを考えている。

総合計画の検証について、現在は、事務事業評価等で事業の検証をしている。部門別計画のイメージで示した主な取り組みに対しては、全ての事業を毎年検証する訳ではなく、主要な事業を絞り込んで毎年の積み重ねを評価していくが、取り組みによっては3年、5年で評価するというものもあるかと思う。

そのあたりの評価の手法、検証できる仕組み等については、今後、しっかりと検討し、提示する。

委員

人口が減っている中で、北杜市としてどうやって増やしていくのが課題になると思う。2040年の目標値を4万人に設定すると、今回の目標は完全にプラスにする方向性なのか、減るのは仕方ないとして、軟着陸を目指すのか、考え方を教えていただきたい。

議長

この4万人というのは、地方創生総合戦略の中で設定されたもので、私自身、少し高い目標だと思うが、色々な事業を進展していくにはチャレンジングな目標設定でないといけないということで、減少しつつもある程度抑えていくように計算した経緯がある。

資料の急に横ばいになってその後減少するというのはあり得るのかと思った。人口ビジョンや新しい方針との整合性を考えながら計画を練っていく事になる。

全体としては増やしたいのか、減少しつつもどこかでくい止めたいのか事務局としては、現在どう考えているのか。

事務局

資料6の3ページ目、負のシナリオにあるように、既に本市の人口ピラミッドは逆三角形になっており、人口減少は仕方ないと考えている。

多死社会として人口の減少は受け入れざるを得ない状況にある中での施策の展開となる。その中で女性、若者に重点を置きながら子どもの数を増やしていくことや、子育て世代に選ばれる地域を目指して、出生率の向上、移住定住の増加に重点的に取り組んでいく必要があると考えている。

委員

10年間の計画で、逆三角形を三角形にすることは厳しいと思うが、今回の計画では、逆三角形をゆるやかにするように検討していくというお考えでよいのか。

事務局

今の人口構造を少しでも改善していくことを目標の一つと考えている。

(自己紹介、ありたい姿について)

各委員から自己紹介を兼ねて事務局案の「ありたい姿」への感想、意見や委員自身の考える「ありたい姿」についての発言については、次のとおり。

(発言者)

(発言内容)

議長

これから、各委員に「北杜市の2030年のありたい姿」について、順番にご意見を伺う。時間が押しているので、先にご発言されたい委員の方がいれば発言されたい。

委員

今の一番の問題は、農業振興が遅れていることと、後継者不足。北杜市で農業がしたいと入って来る人がいるが、補助金の交付期間が終了してしまうと他市に行ってしまうケースが多々ある。

北杜市にも企業が入り、農業法人をやっているのは良いが、雇用はパート・アルバイトだけで、正職員の雇用につながっていないのが問題。これをどうしていくのか、今後発言していきたいと思う。

総論はともかく、各論をどう進めていくべきかの議論を進めてほしい。

人口が増えているところは参考になるという話があったが、例えば、石川県羽咋市では、山間地に、次男、三男が帰ってきたとの話がある。色々な事をアイデアの優れた方々が推進し、それを市長が全面的にバックアップして進んでいると聞いている。

直売所で聞けば、おじいさん、おばあさんが400万、600万、稼いでいると聞いた。こういった発想の良い所を参考にできればと思う。

また、羽咋市はバチカンの枢機卿に米を食べてもらい、実に美味しいお米だと言ってくれたおかげで羽咋市が世界的に有名になり、その米を食べたいと注文があり、相当に高価で販売した実績がある。更にその米で酒を造り一本1万円以上で販売するなど、羽咋市全体で活性化を進めている。

こうした事例を参考にして、各論の議論を進めて欲しい。

委員

主に福祉の問題について、バックキャストは無理だと思っている。

暗い未来を予想して事前に備える事が今からできたら困るはずがない。政策を考える時は、案には対案を用意して議論して欲しいと思う。

委員

資料5の3ページ目で基盤産業に観光が入るなど良いデータが載っており、注目される業種の一員を担っていることがわかった。

資料6の2ページ目のように、観光産業はコロナで大きな影響を受けているが、観点が変わった事業が展開されて世界どこからでも事業ができるようになって

た。観光業界でもワーケーションが注目されており、北杜市にもどのように導入していくかを視野に入れて議論したいと思う。

「ありがたい姿」の「もっと世界を魅了するまち」は良い目標だと思うので、次回は踏み込んだ話ができるようにしたい。

委員

データを見ながら話をすると、資料5の中期目標の人口が4万人になっているが、中期目標にどう近づけられるのかに関心を持っている。

社会増は達成できているが、自然増の所が気になる。【図表1-8】を見ると20～29歳の人口が目標人口もマイナスなのに更に、実績が3桁のマイナスになっている。ここを何とかしないといけないと着目している。子どもを増やすと言うときに、子育て支援は大事だと思うが、そもそも婚姻率が下がっていることが問題なのではないか。合計特殊出生率を見ると北杜市は低いけれども、一家庭あたりに何人子どもがいるかと見てみると多分2人は超えていると思うので、結婚していない人が多いということではないかと考える。

この会議か分科会でもいいので、20代から30代の女性に何故出て行くのか、何故ここで働けないのかを聞いて、ニーズを掴むことが重要だと思う。

ヒントは資料5の7ページ目の【図表4-2】で重要度、満足度のデータから20代～30代の男女別にデータを抜き出せば、若い方が何を求めているのかわかると思うので、年齢別にデータを出して欲しい。

委員

私は農業をしに20年前に移住してきた。その時から大きく変化してきたのは、環境の変化。農業は屋外作業をすることが多いが、特に変化を感じたのは2007～2009年にゲリラ豪雨という言葉が出始めたときと、2019年からこの3年間の7月の長雨・水害、8月の一転乾期のような猛暑になること。

基本構想、基本計画について、SDGsでいわれる持続可能な社会づくりを北杜市が積極的にやっていくべきだと感じている。北杜市に魅力を感じて移住する人のほとんどが、自然環境に惹かれて移住している。中でも山岳景観、水質、日照時間は唯一無二の強みであり、この自然環境基盤があるから他の産業も発展していくと思う。

10年後、20年後にこの自然環境がなければ、地域住民にも移住者にも基盤がなくなってしまうことを恐ろしく感じる。2030年から2045年にかけてテクノロジーが大きく発達し、ITを活用した機械化が進むと言われているが、その速度と同じくらいに環境が変化していくと考えている。

例えば、徳島県の上勝町は葉っぱビジネスで有名だが、今はゴミゼロを目指したゼロ・ウェイストセンターがあり、このモデルが参考になる。

事例をそっくり真似るのではなく、どうしてその事業がうまくいっているのかに注目すべきだと思う。

実現のために、既存の住人と移住者の対話、協議が重要であると考えている。

委員	<p>コロナの影響で高齢者との対話が少なくなっている。地域で高齢者を支える担い手となる人達も、高齢者に声を掛けてよいのか迷っている中で、人と人との交流がすごく減っている現状を感じている。</p> <p>小中学校・保育園にしても、先生方は頑張っている。小さい子どもから、お年寄りまで生活をみると、コロナの影響を受けているが、高齢者の幸福、健康の環境を整えばよいと感じている。</p> <p>また、ふるさと納税の金額を増やしていけるとよいと思っている。</p> <p>市の魅力を発揮し、市の財源を確保できる取り組みだと思う。市と返礼品の業者・農家・観光関係者が一体となって市の魅力を伝える取り組みであり、今後伸ばしていけるとよいと思う。</p> <p>私自身としては、高齢化と少子化の問題解決や、人口ピラミッドの形を変えてゆく一端を担えればと思う。</p>
委員	<p>医療と福祉の関係について、医療と福祉の連携はずっと課題であり、生活の中でのまちづくり、人づくりを30年前から会議などで議論してきているが、なかなか思うようにいかない。</p> <p>構想、計画は立てるが頓挫したり、途中で切れてしまったりする事が多い。</p> <p>困っている人や支援を求めている人が沢山いる。支える仕組みを作ろうと何年も言っているが、取り組みの一つ一つは良いが、それらがうまく絡んでいないのが実情。計画の中でその接着剤となる施策を盛り込んで欲しい。</p> <p>また、一人ひとりが住みよい町にならないといけないと思う。人材が不足する中で、ICTを使いこなせない人もいる。最後はアナログ的に人と人がつながるような、北杜市版の支え合いが文化になるような、大革命を起こしてほしいと思う。</p>
委員	<p>行政改革と総合計画は車の両輪といわれてきた。一方で、対立軸のような関係に見られてきた。今回、行政改革も総合計画に内包されるということで統合的整合性をもった行政改革ができると期待している。</p> <p>行政改革は注文を付けたり、補助金の削減も提言してきたが、一方で多くの夢のある施策も提言してきた。それが総合計画に含められる。総合計画のありたい姿を実現するためには財源基盤の下支えが必要。財源を生むための努力を行政改革という手法を使ってやっていきたいと思う。10年後の北杜市を描くのに、財政的な基盤の一助になればと思っている。行政の不必要な施策・事業はないと思っている。不必要なのではなく、時代にそぐわない施策や事業がでてくるので、そこをそぎ落とす必要があると考えている。</p> <p>総合計画の施策は市民目線からみて、市民のニーズに合っているか、市民の要求の上位に位置しているかを見ていきたい。</p>
委員	<p>課題が多岐にわたると感じている。</p>

人口の動向をみると社会増であったが、自然増はなかったという状況かと思う。移住者からすると当然だという実感。まず北杜市には産科がなく子どもを産む場所がないというマイナスがある。いきなり北杜市にきて子どもを産もうという人はいない。私は子どもが3人いて、全員、山梨県に来てから生まれおり、1人目は韮崎市、2人目は甲府市、3人目は韮崎市が出産場所。北杜市に産科があればよいと思った。自然減を食い止めるにはまずそこを考えないといけないと思う。

社会増で、移住先として人気というのは確か。しかし、今、Googleで「北杜市移住」と調べたら、予測検索では次に「最悪」と出てくる。最悪、いじめ、失敗、移住してはいけないと情報が出てくる。移住に失敗する方々も恐らくいると思う。そのギャップを埋めることを考えていきたい。どこかの資料で移住の相談件数が増えているというデータを見た。移住し、その後どれくらい定住しているか、そこを高めていくことも大切だと思う。現実と理想をどう埋めていくかを考えていきたい。

委員

今日、話を聞くと数字的に難しい面もある。私は、直感や想いで活動しているところもあるが力になればと思う。

何が必要かと考えたとき、人口が先細る中、アウトドアなど、北杜市に元々ある地域の魅力を最大限、発揮させることが大事かと思う。地域のブランディング、つまり価値をあげていくことが必要と考えている。

キャンプ場のお客さんから「水は飲めますか」と聞かれる。水道水が飲めることを知らず自販機で購入される方に北杜市の水は飲水としても生活用水としても使える話をするところがある。武川・北杜の水は、最大の価値がある。お客さんは満足して帰ってくれている一方で、その価値がわからない住民がいるようにも感じる。住んでいる人たちが高い意識をもち、かみ合わせることができていけば、価値があがっていくのではないかと思う。

行政とこのような場で話し、前向きに共有できるようにしていく必要があると考える。

委員

事前に資料をみたが、内容が多岐にわたり消化するのに皆様苦勞したのではないか。基本構想、基本計画でいろいろな項目がでている。私としては、何か核になるところを押さえて、1点突破、全面展開的に進めていくことがよいと思う。一つの重点、肝となると、他の施策を有機的に結び付けていくことが大切。その方が計画倒れにならないのではないかと思う。

それは、どこかと言うと新市長の公約にある「子ども人口」を倍増させるということだと思う。子育て世代を増やしていくことは、一番外していけない目標であり、そのためには2つ重要だと思うところがある。

事前配布用の資料6の1ページ目の北杜市の欄に「持続可能な地域とするために、若年層の転入促進、その基盤となる産業振興、生じる空白を埋める継承が重

要」という文言がある。これが大事だと思うが、”基盤となる”というところに「産業振興」だけでなく、「自然環境」と「人」を追加したいと考える。

北杜市への移住者は自然環境に魅かれてくることが多い。第1回の子ども育成戦略会議を傍聴した時に、移住者の方から「自然環境に惹かれてきた」という発言が多くあった。持続可能な地域、呼び込める地域としていくときに最大の基盤は自然環境だと思う。気候変動や太陽光発電の問題など、人口が増えていくなかで開発が進んでいくと自然が荒れていく。自然が荒れていくと二律背反に陥ると思う。基盤、魅力を自然環境としたときに、どうやって維持し、向上させていくかという視点が欠かせないと思う。

また、先ほど別の委員も指摘されたが、惹かれて移住してきた方が住み続けたいまちにする必要があると思う。魅力的な自然だけでなく、魅力的な人がいる必要があり、それには魅力的な人を育てること、教育を魅力化することが大切だと思う。

このような理由から、基盤として、「自然環境」と「人」を加える必要があると思う。また、新型コロナウイルスの影響と取るべき対策という資料にアフターコロナに関する記述が書いてあるが、移住先として人気としていくには「子育て世代に魅力的な教育の推進」を付け加える必要があると思う。この地域は、社会増は継続的に達成している。達成されているものにより可能性があり、そこを深掘していくことは現実的かつ発展性があると思う。そのためには、環境や教育を魅力化していくことが不可欠。

加えて、他の委員が指摘しているように先進的な事例を参考にして応用していくことも必要だと思う。人口が増加しているのはベットタウンという指摘があった。明石市などの事例がある。北杜市はベットタウンになれる可能性があると思う。なぜかというと、テレワークが可能になったから。テレワークを生かすことで、東京のベットタウンになることもできると考える。そのような発想でやれば、人口増は可能であると考え、東京のベットタウンとなれるような、積極的な議論をしていきたいと思う。

委員

第3次総合計画は、基本構想、基本計画の二本立てになるとのことだが、まず基本構想をとということかと思う。総合計画とSDGsを連動させ、SDGsの達成に寄与できるような計画になれば、日本に誇れる計画になると思う。絵に描いた餅ではなく、実質可能な計画となるよう、具体的に列挙する必要がある。次回には骨子が出てくるとのことなので、色々意見を言っていきたいと思う。

委員

審議会諮問機関の位置付けとしては、総合計画を網羅的に策定する立場になく、詳細は市の事務局がつめていくものと認識している。我々は、この議論の中で、計画を骨太にできたらいいと思う。

一例をあげると、SDGsの17ゴールを網羅するとなると先ほどのような議論になるわけで、民間企業としてサステナビリティを担当している立場からすると、北

杜市の強みを活かして17のゴールのどこにフォーカスするかということだと思  
う。

フォーカスするところは、住民に対する、移住者に対する、観光客に対する生  
きがい、今日的にいうと、ウェルビーイング (wellbeing) をキーワードにし、  
高齢者、若年層、働き盛りの世代、健康、自然、教育、生きがいを追求していく  
まちになったらどうかと思う。

少子高齢化、人口減少の議論はどこの自治体も実施しており、あえて骨太に議  
論できればと思う。

委員

北杜市も財政力指数が低くなっている。国の施策を活用して、自分たちがやり  
たいことを実現していくことが大事だと思っている。

「ありたい姿」を考えたときに、参考になるのは総務省の有識者研究会が平成  
30年に公表した「自治体戦略2040構想研究会」。そこでは、高齢化社会の中で、  
人口減少が進み、このままでは行政職員も立ち行かなくなることを見越したスマ  
ート自治体への転換を一つの方向性として示している。

デジタル化の活用は、ありたい姿を描いたときに、その姿を実現する手段であ  
ると思っている。まずは、ありたい姿を描くことが大切で、そこにどうやって向  
かっていくかを考えた際の一つの手段として、デジタル化やDXの活用があると考  
える。

しかし、デジタル化を活用する際に注意すべきポイントは、階段上に成果があ  
がらないこと。テレワークがある日突然普及したように、突如、指数的に伸びる  
ので、効果が出なかったからといって途中でやめないでいただきたい。また、デ  
ジタル化への転換は、はじめは慣れない部分があると思うが、徐々に慣れていく  
と考えている。

例えば、電子申請なども徐々に普及していくと思うし、小中学校はギガスク  
ール構想で飛躍していくと思う。

一方、高齢者にどのようにデジタル化に慣れてもらうかは課題となるが、徐々  
にでも使ってもらうことが大事である。課題を解決するためのデジタル化で、  
2030年には行政職員が立ち行かなくなることなく、地域課題を解決できる組織に  
なっている姿を目指していければよいと考えている。

委員

7月17日の新聞記事に、全国の人口増減を示した表が載っていた。その記事に  
は、山梨県昭和町は、まちの地形や企業誘致、区画整理、インターチェンジを活  
用し、人口が増加しているとの内容が記載されていた。

また、資料5の中にも昭和町は社会増・自然増に上位に位置しているとの表が  
あった。私は、北杜市にインターチェンジが3つあることに注目しており、なん  
とかインターチェンジを活用するすべがないかと考えている。

人口増加のための施策として、企業誘致は一つのポイントだと思う。地域外の  
生活のインフラとしてインターチェンジは活用されているが、企業誘致の際には  
インターチェンジの有無は重要かと思う。

人口を増やすためには就業場所が大切。3つのインターチェンジを活用し、企業誘致をして、少しでも人口増加につながれたらと考えている。

委員

第3次総合計画には、第2次総合計画の良いところを残してほしいと思う。

高齢者が多いが、自然環境が良いため、移住してきた若い人もいる。自然環境の良さは、先代が残り、守ってきたものだと思うので、北杜市として、ぜひ、その点をいかしていただきたい。また、これから地域を引っ張っていく若者には高齢者と一緒に、北杜市を良くしていけるように盛り上げていただきたい。これまでに先代が残してきた良さやノウハウを新しい総合計画の施策の中に取り入れて、これからの北杜市に向けて動けたらいいと思う。

委員

人口減少のことが話題になっているが、少子化は実にまったなしの状況。児童・生徒が減っている学校が大変多く、十数人しか児童・生徒がいない学校もあり、学校の存続もまったなしの状況となっている。

学校の規模が大きいこと、小さいことはそれぞれメリット・デメリットがあり、どちらが良いのかは一概には言えない。小さい学校にも良さがあるため、学校の統合の話し合いは長引いており、なかなか解決できていない。

今回、会議に出席し、学校教育が抱える課題を改めて感じる事ができた。皆様の意見が反映された計画になると良いと思っている。

北杜市の将来都市像の一番として、教育や子育てのことが掲げられていてうれしく思う。近年、個性や特徴をもった子どもが増えており、多様性を持った子どもたちが更に増えると思う。

また、「社会増」という言葉をイメージしたとき、今後ますます、考えや個性をもった人が増えるのではないかと考えている。地域の子どもたちにとっても、それはいいことであると思う。いろいろな考え方や個性を持った子どもたちが多くなるということは、プラスの面がある。

教員の多忙化が進んでいる中で、さらに拍車がかかるのではないかとという危惧もされている。北杜市のありたい姿の中にある「子どもの個性や特徴を受け入れ、格差を生まない地域」は理想。その実現に向けた対応をしていくための学校教育の充実や、教員の増加、施設の充実など、様々な面に対応できるような配慮が増えていけば、学校としてより発展できるのではないかとと思う。

中澤委員

私自身、13年前に東京から家族全員で移住してきた。当初、私は東京に単身赴任しながら、週末は北杜市で家族と過ごす生活を送っていた。移住したと同時に地区に入ったこともあり、地区の方々には子どもの面倒まで見ていただくなど、親しくしていただいた。移住してきた13年前に比べて、地区の方々が高齢になり、地区活動ができなくなってしまっている姿を見ると、とても寂しい気持ちになる。私は、これまでに良くしてくださった方々に何か恩返しをしたいと思っている。

私の考える「北杜市のありたい姿」は、移住者や子どもを含め、地区のゲートボール場で、高齢者と一緒にゲートボールをして笑いあっている姿。そのためにはどのようなアプローチができるのか、考えていけることを楽しみにしている。

下田委員

北杜市の新しい総合計画の策定にあたり、人口が減少している中、自治体としてどのような形で人口を増やしていくか考えていきたいと思い、本審議会に参加した。

一方で、どのような形であれ、一人ひとりが今を一番幸せに、いきいきとしていられるのであれば良いのではないかという考えもある。私自身、夫が北杜市に住みたいということで一緒に移住してきた。

新たに仕事を探す中で、女性の仕事には非正規雇用が多いと感じた。また、正規雇用で働きたいけれど、子育てもあるため、なかなか思うように仕事をするのが難しいと感じたこともある。職場にいる移住者の方から話を聞いていると、「都市部を離れ、田舎にのんびりしに来たけれど、東京でやっていた仕事をより安い賃金で働いている」という声を耳にする。女性だけではないかもしれないが、生きにくさを感じた自分の経験を踏まえ、生きにくさのない北杜市になってほしいと考えている。

### 議題③その他

別紙「市民ワークショップについて」に基づき、事務局からワークショップの開催報告。その他の委員からの質疑や意見等については、次のとおり。

(発言者)	(発言内容)
議長	その他についてご意見はあるか。
委員	ここで審議は終わりとなるのか。また、宿題のようなものはあるのか。
議長	ここで審議自体は終了になる。宿題のようなものは、この後事務局から説明がある場合もある。
委員	子ども育成戦略会議や学校に係る適正規模審議会等が同時に行われているが、総合計画との共有、すり合わせは行われるのか。
事務局	子ども育成戦略会議に関しては、情報共有やあり方を検討していかなければならないと考えている。
委員	子ども育成戦略会議に関しては、議事録を共有する形で検討していただければと思う。

委員	開催方法について質問だが、リモートになる可能性はあるか。または、希望者はリモートになる可能性などあるか。
事務局	コロナの状況が悪くなった場合にはリモートも考えていました。状況に応じてご案内する。

#### 5) その他

次回は、8月19日（木）14時から市役所大会議室（同会場）で開催する。

#### 6) 閉会